

令和6年度 自己評価・学校関係者評価書

令和7年 3月19日

静岡聖光幼稚園

1 幼稚園の教育目標

- 自然を素直に受け止め、自然と向き合う感性や意欲を育てよう
- 人と共に生きることの喜びを味わうことのできる社会性を育てよう
- 社会の中で自尊心を持って、自分で生活を営む生きる力を育もう

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1 地域との関わりを考えよう。
- 2 異年齢のかかわりの充実を図るために工夫をしよう。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由	関係者評価
① 保育の計画性	A	子どもの実態や年齢に合わせた保育計画に取り組み、実際に活動に取り組むことができた。	○
②保育のあり方 幼児への対応	A	教師間で連携を取り合いながら、一人ひとりに合った対応を心掛けることができた。	○
③教師として資質 能力、適正等	A	教師一人ひとりがそれぞれの立場で任された役割を考えながら、自分の能力を発揮することができていた。	○
④保護者への対応	B	保育の面での情報発信は細やかに伝えることができたが、園としての情報発信は改善の余地や工夫がもう少しあると良かった。	△
⑤地域の自然や地 域との関わり	B	年長は地域との関わりが充実していた面もあるが、いずれも単発であった。全体的には意識的に項目のこの内容について工夫や考慮が必要であった。	△
⑥研修と研究	B	日常での保育の情報発信に時間をついやし、他の研修や研究の時間を十分に確保することが出来なかった。	△
⑦環境整備、 安全点検	A	安全点検については新たに防犯訓練を取り入れるなど、前向きに取り組めた。園舎建て替えによる安全、環境面についての話し合いも行うことができた。	○

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

異年齢との関わりは計画通り充実していたが、学年によっては反省の通り活動内容等さらに工夫をしていきたい。

地域の関わりにおいては、年長は充実した面も見られたが、他の学年については今後検討し、より子どもたちのためになれることを考えていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
異年齢のかかわりの充実を図るために工夫しよう。	3 学年での遊びの工夫を考える。 隣同士の学年の（少 - 中）（中 - 長）のあそび方、関わり方をそれぞれ考えて実践していく。
子どもの遊べる環境について考えよう。	建て替えにより園舎の環境が変わるため、子どもの遊びの環境について考え充実を図れるように工夫していく。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

保護者や地域の方々等に向けての保育などの情報発信は園をあげて取り組み、充実してきた面は評価に値するが、園としての情報発信など、又、反省した各項目での工夫や考慮の余地がまだまだ今後、園全体でよく話し合い、更に子どもたちのために検討を続け実践も行ってほしい。園舎建て替えに伴う環境の変化も含め様々な角度より PDCA サイクルを活用し、より良い園となれる努力を期待する。

上記、学校評価の報告を受けた事を証明します。

学校法人 大石学園

静岡聖光幼稚園

理事長 大石和正